

令和5年5月18日

芦屋市企画部市民参画・協働推進課
課長 小川 智端子様

(あしや市民活動センター指定管理者)
特定非営利活動法人あしやNPOセンター
事務局長 橋野 浩美

地元ぶらぶら学～芦屋「オモシロ」マップをつくろう～事業報告書

- 1 実施日：5月11日（土）9：30～16：00 オープンスペース1F
- 2 担 当：株本就子
- 3 参加者：10人
- 4 講 師：草郷孝好さん（関西大学社会学部教員）
- 5 目 的：自分たちが住むまち、学ぶまち、働くまちの地域資源を再確認し、活用
法を考え、つながることでウェルビーイングについて考える機会とする。
- 6 内 容：フィールドワークから地域資源を再確認し、マップを作成する。
報告会を行い市民の方々と情報共有する。
 - ①「地元学」のレクチャー
講師：草郷孝好先生（関西大学社会学部教授）
 - ②フィールドワーク（2グループ）
 - ・まちあるきしながら地元人にインタビュー
 - ・各グループで写真係を決める
 - ③フィールドワークの内容をまとめる（模造紙に書き出す）
 - ④各グループでの発表
 - ⑤市民参加の機会を作り発表する。（6/7 ソーシャルナイトでプレゼン予定）
- 7 アンケートおよび感想より抜粋（回答数：6）
 - ・ 高校生の方とご一緒できたことが最高でした。もっと多くの方に参加してほしかった。（ガイド）
 - ・ 10年以上芦屋市に住んでいましたが、知らないことをたくさん学べていい経験になった。（学生）
 - ・ 芦屋を再発見できた。（学生） など
- 8 振り返り
 - ・「地元学」とは、地元にある資源、自然、歴史、文化、生活する人々に着目し、これらの資源を活用して地域発展を促していく手法である。
 - ・「ないものねだりをやめて、あるものさがしをしよう」という言葉が印象的であった。
 - ・「あるもの」にはプラスの面だけではなくマイナス面もあり、両方に目をむけると地域の課題解決へとつながっていく。

- ・土の人（地元の住人）と風の人（地元以外の人）が一緒にまち歩きをすることで、お互いの見方から気づかないものに気づいていく。このことから土の人は自信を深め、主体的にまちづくりを進めていくことを目指す。
- ・もっと多くの地域で地元学を行うことによって住民の気づき、地域のもつ力を再認識する機会となり、ウェルビーイングなまちになる。

以上

